

## I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2017年度大学評価結果総評】

理工学研究科における内部質保証については質保証委員会が定期的に実施され年度を振り返った点検・評価報告書が慎重に審議されまとめられているなど、適正な活動がみられる。理工学研究科の3つのポリシーはWEBや小金井大学院要項により周知・公表されている。大学院教育で課題とされるリサーチワーク、コースワークは修士課程、博士後期課程ともに導入され課題解決がなされた。大学のグローバル化事業と連携したIISTが2016年秋学期に設置・開設されたことは高く評価できる。シラバスはWEB上に公開され、その内容は専攻主任会議がチェックし、授業評価アンケートなどを通じ学生の意見が担当教員に届き、これに基づき見直しなどが行われている。幅広い分野の人材を受け入れるため多様な入試が実施され、また6年一環教育が目標と掲げられ学部と連携した進学促進に係る取組がみられる。教員の採用・昇格、募集・任免には基準が設けられ、偏りのあった年齢構成は改善に向かっている。専攻主任会議において留学生の修学状況調査を進めることが予定されるなど、留学生の修学支援について多様な検討が進められている。以上のように理工学研究科では、教員・教員組織、教育規程・教育内容、教育方法、学生の受入れ、学生支援などに係る自己点検は機能し、多くの側面での改善がなされてきている。今後、その成果についてより具体的な指標などとして確認されていくことが期待される。

## 【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

17年度までの課題であったコースワークの設置、定員の充足、教員の年齢構成、国際化への対応、専攻間の横断的教育活動に関しては、博士課程定員を除き目標が達成されている。研究活動の充実、留学生の受け入れ増大等により博士課程入学者の増大が課題である。継続的質保証を行っていくために年度の目標設定を行い、着実に実施していく。

## 【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

理工学研究科の昨年度の評価結果は、従来からの問題点等が改善に向かっており、概ね適正な活動が見られるというものであった。その中で、博士後期課程の定員充足が課題として取り上げられ、研究活動の充実および留学生の受け入れ増大等が対策として挙げられていた。今年度はこうした課題が博士後期課程の定員充足の問題を除き目標が達成されている。今後とも着実に実施し質保証が継続的に実現されることが望まれる。ただし、あわせて課題として指摘された達成指標については、対応が進んでいないように思われる。今後は、達成指標に基づく成果の「見える化」にも配慮した質保証活動にも取り組んでいただきたい。

## II 自己点検・評価

## 1 理念・目的

## 【2018年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

## 【理念・目的】

理工学研究科は、1965年に開設された工学研究科を基礎とし、21世紀の知識基盤社会に対応できる、幅広い知識を持った技術者・研究者を養成することを目的として2013年の改組転換により開設された研究科である。理工学部、生命科学部の2学部を母体とし、機械工学、電気電子工学、応用情報工学、システム工学、応用化学、生命機能学の6専攻からなる。

理工学研究科は、「モノづくり」に寄与する技術者・研究者の育成、高度情報化社会を支える基盤技術の発展に寄与する技術者・研究者の育成、生命科学研究を通じて社会に貢献する高度職業人および研究者の育成、さらに全専攻共通の課題として、地球環境を守りながら、持続可能な豊かな社会を切り開く技術者・研究者を育成することを目的としている。

6年一貫教育を想定し、母体となる2学部と連携しながら、学部教育で培われた基礎知識を基に先進の研究活動を通じて専門教育を施し、本学の「自由と進歩」の建学の精神に立ち、自己啓発型の高度な知識をもった人材を育成することをその基本理念とする。

## 【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※大学院学則別表（ ）

本学設立の理念・目的、および教育目標のもとで、独創的・学際的・国際的かつ総合的視野に立った専門的な理工学の教育・研究を实践し、以下に示すような、高度な専門技術者および研究者としての基礎的能力を備え、理工学のさまざまな分野での活動を通して国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。

1. 「モノづくり」等の基幹産業発展に貢献できる技術者・研究者

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2. 高度情報化社会を支える基盤技術発展に貢献できる技術者・研究者
3. 生命科学研究を通じて社会に貢献できる技術者・研究者
4. 地球環境を守り、持続可能な豊かな社会を切り拓く技術者・研究者

本研究科は、1965年に設立された工学研究科を基礎とし、2013年の組織改革により、現代社会におけるより高度な問題に対応できる技術者・研究者を育成することを目的として設立された。理工学研究科は、理工学部と生命科学部の2学部を母体とし、機械工学、電気電子工学、応用情報工学、システム理工学、応用化学、生命機能学の6専攻から構成されている。

6年一貫教育を想定し、母体となる2学部と連携し、学部教育で培われた基礎知識を基に先進の研究活動を通じて専門教育を施し、本学の「自由と進歩」の建学の精神に立ち、自己啓発型の高度な知識をもった人材を育成することを本研究科の基本理念とする。

①研究科（専攻）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか  はい  いいえ

②研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。  はい  いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

(~400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

2018年度は大学の理念である「自由を生き抜く実践知」という大学の理念と研究科の教育理念の整合性を検証する作業を開始した。専攻主任会議の議題とし、「自己点検評価」、「中間目標」の策定作業を通じて意見交換を行っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。  はい  いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか

(~400字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。

Webサイトを通じて周知している。

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
IISTの設置と運営を核とする国際化の推進。実践知の立場からの研究課題の設定。競争的研究費の獲得実績の増大。特に実践的テーマ、民間企業との共同研究。	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

理工学研究科の理念・目的は、研究科として目指すべき方向性等が明らかにされており、「自由と進歩」の建学の精神も踏まえて設定されている。研究科の理念・目的が大学の理念に整合するかどうかは、専攻主任会議の議題とされ、意見交換が行われている。研究科の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示され、Webサイトを通して職員および学生に周知するとともに社会に公表されている。

## 2 内部質保証

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。  はい  いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

・専攻主任数名からなる研究科質保証委員会を組織し、必要に応じて議論の機会を設けている。

## (2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

数名の専攻主任から構成される理工学研究科質保証委員会が組織され、必要に応じて議論の機会を設けているが、質保証委員会の活動の目的等を考えれば、定期的な活動が望まれる。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

先に掲げた教育目標に照らし、修士課程においては、高度な技術者・研究者として備えるべき、以下に示す学力と能力を修得した者に学位を授与する。

1. 高度な専門知識と技術を身に付けていること。
2. 研究内容を自身の言葉で論理的に説明できる能力を身に付けていること。
3. 真摯な態度で学術全体を俯瞰し、地球環境等に配慮できること。

博士後期課程においては、上記の能力に加えて、高度な研究企画力を有し、自立して研究・開発を実践し、技術者・研究者として活動できる者に学位を授与する。

①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい  いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

本研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、各専攻分野において、以下に示す教育課程と教育科目を配置する。

1. 機械工学専攻では、修士課程および博士後期課程において、各専門分野（材料・強度、流体・エネルギー、制御・総合）に関連する科目。
2. 電気電子工学専攻では、修士課程および博士後期課程において、各専門分野（エネルギー工学、制御工学、材料・物性工学、デバイス工学、通信工学、回路工学）に関連する科目。
3. 応用情報工学専攻では、修士課程および博士後期課程において、各専門分野（計算機工学、通信ネットワーク、情報処理工学、人間情報工学）に関連する科目。
4. システム理工学専攻（創生科学系）では、修士課程および博士後期課程において、各専門分野（知能科学、数理科学、制御工学、センシング工学、物質科学、人間科学、人間工学）に関連する科目。
5. システム理工学専攻（経営システム系）では、修士課程および博士後期課程において、各専門分野（数理、金融工学、経済工学、生産管理工学、応用統計工学）に関連する科目。
6. 応用化学専攻では、修士課程において、各専門分野（物性化学、材料化学、化学工学、環境化学）に関連する科目。博士後期課程において、先端応用化学分野に関連する科目。
7. 生命機能学専攻では、修士課程において、各専門分野（ゲノム科学、蛋白質科学、細胞生物学、生命システム学、基盤植物医科、実践植物医科）に関連する科目。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい  いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。 <b>小金井大学院要項 III</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <a href="https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180404_koganeiyoukou3.pdf">https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180404_koganeiyoukou3.pdf</a></li> <li>・ <a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/riko/">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/riko/</a></li> </ul>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 全専攻から選出された専攻主任・副主任によって構成される専攻主任会議において、随時検証している。検証結果を各専攻の教員に提案し、意見を聴取する。再度、専攻主任会議において全専攻の意見を反映した目標・方針を作成し、研究科教授会にて承認する。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理工学研究科専攻主任会議議事録</li> <li>・ 理工学研究科教授会議事録</li> </ul>	
3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。 研究指導教員によるきめ細かな個別指導の下で行う最先端の研究活動(リサーチワーク)を補完し、それに必要な学力の修得を目的とする体系的カリキュラムの編成・実施(コースワーク)を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし</li> </ul>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小金井大学院要項 III</li> </ul> <a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf</a>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。 博士後期課程において求められる高度な研究活動(リサーチワーク)に対し、課題の発掘・推進・解決を多角的にサポートするカリキュラム編成(コースワーク)を設定・実施している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小金井大学院要項 III</li> </ul> <a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf</a>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 教員は自らの研究活動・学会活動を通じて得られた知見を学生の研究指導・授業に反映することで、専門分野の高度化に対応した教育を実施している。また、最先端の研究分野で活躍している研究者を客員教員として招聘すること、各種セミナー・講演会を開催することで、最先端かつ高度な研究に学生が触れる機会を提供している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小金井大学院要項 III</li> </ul> <a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf</a>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 本学独自の大学院生海外発表補助制度および英語論文校閲制度については、実績として、理工学研究科が学内において最も有効に活用してきた。大学院教育においては、世界で活躍できる一流研究者の育成が必須かつ急務であり、外国語コミュニケーション能力とグローバル視野を育成するために、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

推奨している。

IIST（総合理工学インスティテュート）の新規開設に理工学研究科と情報科学研究科が協働して取り組んできた。2016年 IIST を開設し、多分野の横断的のコミュニティの実施等を通じた専攻間の連携を行っている。

**【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2016年 IIST を開設した。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・小金井大学院要項 III

[http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018\\_youkou\\_koganei\\_3.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf)

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

**【履修指導の体制および方法】** ※箇条書きで記入。

・修士課程においては、リサーチワークは専攻を構成する教員の研究分野の研究テーマを実施することによって実践される。加えて「コースワーク」では、「リサーチワーク」を指導教員が担当する「特論」科目を必ず履修することで、リサーチワークを補完する。これに加えて、近接領域を専門とする教員の「特論」と非常勤教員による関連科目を履修する。これによってリサーチワークの充実とともにこれに資する関連知識の涵養が行える。また、博士課程の学生に対するコースワークの整備に過去3年間にわたり取り組んできており、現行の就学生に対しては、単位化された授業科目が提供されている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

**【研究指導計画の明示方法】** ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。

・理工学研究科ガイダンスを開催し、履修・研究実施に必要な情報を周知している。  
・指導教員による適切な履修および研究指導を実施している。

**【根拠資料】** ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

・小金井大学院要項 I

[https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329\\_koganeiyokoul.pdf](https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokoul.pdf)

・小金井大学院要項 III

[http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018\\_youkou\\_koganei\\_3.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf)

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

・小金井大学院要項に「修了までのスケジュール」、「履修モデル」を明記している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・小金井大学院要項 I

[https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329\\_koganeiyokoul.pdf](https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokoul.pdf)

・小金井大学院要項 III

[http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018\\_youkou\\_koganei\\_3.pdf](http://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/2018_youkou_koganei_3.pdf)

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

**【検証体制および方法】** ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

・専攻主任会議におけるシラバスチェックを行っている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

**【検証体制および方法】** ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

・授業アンケートを通じて授業内容の適正を保っている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【確認体制および方法】</b> ※簡条書きで記入。 ・シラバスに成績評価の方法・基準を明示し、公平性を確保している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※簡条書きで記入。 ・小金井大学院要項に学位論文審査基準を明示している。	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・理工学研究科修士課程学位審査内規 ・理工学研究科博士後期課程学位審査内規 ・小金井大学院要項 I <a href="https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokou1.pdf">https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokou1.pdf</a>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※簡条書きで記入。 ・専攻主任会議において、学位審査過程を運営管理し、学位授与状況を把握している。 ・研究科教授会において、専攻主任会議でまとめられた学位授与状況を確認・承認している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学研究科専攻主任会議議事録 ・理工学研究科教授会議事録	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで） ※取り組み概要を記入。 指導教員は、学位論文研究進捗報告会・グループミーティング等を定期的に行い、学位水準を保っている。さらに、国内外の学会における研究発表に向けた指導を通じ、学位水準の向上に継続して取り組んでいる。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・学生補助金 ・学会発表奨励金 ・海外における研究活動補助費	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【修士】</b> （～400字程度まで） ※責任体制および手続等の概要を記入。 各専攻において修士論文発表審査会を実施し、主査・副査は学位審査基準に従い、公正な合否判定を行っている。各専攻の判定結果は、専攻主任会議における審査後、理工学研究科教授会において審議・承認される。一連の手続きを経たのち、適切な学位の授与が行われている。	
<b>【博士】</b> （～400字程度まで） ※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 学位規則の通り	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学研究科専攻主任会議議事録 ・理工学研究科教授会議事録 ・理工学研究科修士課程学位審査内規 ・理工学研究科博士後期課程学位審査内規 ・小金井大学院要項 I <a href="https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokou1.pdf">https://www.hosei.ac.jp/documents/gs/jyugyo/koganei/rishu/20180329_koganeiyokou1.pdf</a>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※簡条書きで記入。 ・全専攻から選出される就職担当教員によって構成される就職担当者会議において、小金井キャリアセンターと連携し、	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>学生の就職・進学状況を把握している。</p> <p>・研究指導教員を通じて学生の就職・進学状況が調査され、就職担当者会議にて各専攻の集計結果が報告される。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・小金井就職担当者会議議事録</p>	
<p>3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>各専攻において2018年度指標となりうる評価基準を検討する(した)</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例:アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>学生の学会発表・論文投稿・受賞等の研究実績件数を集計し、この情報を基に学習成果を測定している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>各専攻において、教員が実施する試験・レポートによる成績評価に基づき、学習成果の検証を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>各教員は、FDアンケート結果を学生からの重要な意見情報として活用している。または、質保証委員会において、教育の質向上の重要資料として活用している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<p>・修士論文の中間発表会は、1年経過時の学習状況を把握する場として、貴重な機会である。この機会は、学位取得までの一つの重要な節目と認識されており、論文主査以外の教員のコメントを学生、担当教員同士で取り交わすことで学位の質保証に繋がる。</p> <p>・関連する学会での研究成果を発表する機会を作ることを奨励している。これにより、研究活動の水準を保つ努力をしている。</p>	A

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
<p>・特になし</p>	

### 【この基準の大学評価】

#### ①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>理工学研究科では、修了要件を明示した学位授与方針が設定されている。また、学位授与方針を達成可能とするため、</p>
--------------------------------------------------------------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

それぞれの専攻における専門分野に関連する科目が配置されている。また、これら教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、大学院要項で周知され、ホームページ上で公表されている。これらの方針等は、全専攻から選出された専攻主任・副主任によって構成される専攻主任会議において、随時検証している。検証結果に対する各専攻の意見を集約・反映し、専攻主任会議を経て研究科教授会にて承認されるという体制になっている。

### ②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

理工学研究科では、指導教員によるきめ細かな個別指導の下で行う最先端の研究活動（リサーチワーク）を補完する形で、そのために必要な学力の修得を目的とする体系的カリキュラムの編成・実施（コースワーク）を行っている。博士後期課程においては、授業科目を単位化し修了要件としている。また、リサーチワークに対し、課題の発掘・推進・解決を多角的にサポートするためのコースワークが設定・実施されている。教員自らが研究活動・学会活動を通じて得た知見を学生の研究指導・授業に反映することで、専門分野の高度化に対応した教育を実施している。最先端の研究分野で活躍している研究者を客員教員として招聘したり、各種セミナー・講演会を開催することで、学生が最先端かつ高度な研究に触れる機会を提供している。大学院教育のグローバル化推進のため、学生には、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議での発表を強く推奨している。情報科学研究科と協働して IIST（総合理工学インスティテュート）を開設・運用している。

### ③教育方法に関すること (3.4)

理工学研究科の学生の履修指導は指導教員が担当している。指導教員の「特論」科目の履修と非常勤教員等による関連科目の履修が指導されている。研究指導計画は研究科ガイダンス等で学生に周知している。こうした研究指導計画に基づいて指導教員による研究指導や学位論文指導が行われている。シラバスは専攻主任会議においてチェックが行われている。また、授業がシラバスに沿って行われているかの検証は授業改善アンケートにより行われている。

### ④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

理工学研究科では、シラバスに成績評価の方法・基準を明示し、単位認定の公平性を確保している。学位論文審査基準は大学院要項に明示され、学生に周知されている。専攻主任会議において学位審査過程を運営管理することで、学位授与状況を把握し、さらに研究科教授会で確認している。指導教員が主導する学位論文研究進捗報告会・グループミーティング等を定期的に行うことで学位水準を保つとともに、学外での研究発表に向けた指導で学位水準の維持・向上に取り組んでいる。各専攻において修士論文発表審査会を実施し、主査および副査が学位審査基準に従い公正な合否判定を行っている。それらの判定結果は専攻主任会議での審査を経て研究科教授会で審査・決定される。学生の就職・進学状況は全専攻から選出される就職担当教員によって構成される就職担当者会議及び専攻会議において、小金井キャリアセンターと連携して把握されている。学習成果を測定するための指標は、評価基準を検討している段階であり、設定には至っていない。具体的な学習成果の把握は学生の学会発表件数、論文投稿件数、受賞件数を用いて行われている。定期的な学習成果の検証は、専攻において教員が実施する試験やレポートの成績評価を基に行われている。授業改善アンケート結果を質保証委員会の重要資料として活用している。

## 4 学生の受け入れ

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

##### 4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

#### 【学生の受け入れ方針】

本研究科には、機械工学、電気電子工学、応用情報工学、システム理工学、応用化学および生命機能学の6専攻が設置されている。理工学のさまざまな分野での研究活動を通して社会の発展に貢献することを目的として、独創的・学際的・国際的かつ総合的視野に立った専門的な理工学の教育・研究を実践し、高度な専門技術者および研究者としての基礎的能力を備えた人材を養成している。

本研究科は、以下に示すような人を求める。

1. 高い志と粘り強さをもって、高度な専門技術者や研究者を目指す意欲にあふれる人。
2. 理工学研究に必要な基礎学力をもち、専門分野における知識と技術を学ぶために必要な実践、実行、応用および創造の能力を伸ばすことに意欲あふれる人。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

各専攻では、多岐の分野にわたる専門を有する技術者・研究者を養成するために複数の入試方式を用意し、大学院教育を受ける基礎学力を備えているかを判定して学生を受け入れる。入試方式は5つあり、①一般入試、②学内推薦入試、③一般推薦入試、④社会人特別入試、⑤外国人学生特別入試である。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

幅広い分野にわたる学生を受け入れるため、一般入試・学内推薦入試・一般推薦入試・社会人特別入試・外国人学生特別入試を実施している。一般入試において筆記試験科目を公表すること、学内推薦入試において推薦基準を明確化していること、すべての入試において口述試験の面接官を複数人で構成することで公正な選抜を実施している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学研究科募集要項

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行なうとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

6年一貫教育を目標として掲げ、構成する学部（理工学部・生命科学部）と連携し、定員確保に努めている。一方、学内推薦入試において推薦基準を明確化するとともに、推薦人数が収容定員を超えないことと定め、適正管理を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率（2013～2017年度）

（各年度5月1日現在）

【修士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	295名	295名	295名	295名	295名	
入学者数	197名	180名	192名	149名	196名	
入学定員充足率	0.67	0.61	0.65	0.51	0.66	0.62
収容定員	295名	590名	590名	590名	590名	
在籍学生数	197名	376名	377名	341名	350名	
収容定員充足率	0.67	0.64	0.64	0.58	0.59	0.62

【博士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	22名	22名	22名	22名	22名	
入学者数	3名	1名	1名	4名	11名	
入学定員充足率	0.14	0.05	0.05	0.18	0.50	
収容定員	22名	44名	66名	66名	66名	
在籍学生数	3名	4名	5名	6名	18名	
収容定員充足率	0.14	0.09	0.08	0.09	0.27	0.13

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】 ※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00以上

【定員未充足の場合の提言指針】 ※改善勧告なし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

提言	努力課題	
修士	0.5 未満	
博士	0.33 未満	

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行ない、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。  
2017 年度入試より英語について、外部試験スコアを導入し実施している。学生募集および入学者選抜の結果について、専攻主任会議・研究科教授会において検証している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
・理工学研究科募集要項

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

理工学研究科の求める学生像については、「意欲にあふれる人」との記述がある。修得しておくべき知識等の内容・水準については「理工学研究に必要な基礎学力をもち」とあるが、基礎学力がどのようなものか具体的には示されずとなおよいと思われる。入学者選抜は一般入試・学内推薦入試・一般推薦入試・社会人特別入試・外国人学生特別入試の 4 通りの試験によって行われている。すべての試験で口述試験を行う面接官は複数人で構成している。定員の超過・未充足については、学内推薦者の適正管理に努めているものの、定員の未充足が続いているため、引き続き定員充足のための努力が求められる。なお、入学者選抜の結果については専攻主任会議を経て研究科教授会において検証されている。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 教員・教員組織

**【2018 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

**【教員像および教員組織の編制方針】** (2011 年度自己点検・評価報告書より。参考に工学研究科のものを記載)  
工学研究科では、各専攻分野の高度の専門知識を有すると同時に、幅広い教養を持ち、地球規模でものごとを考える教員であることが期待される。専門分野の教育・研究を通して学生に自己探求心を持たせる教員であることが要求される。工学研究科は、学部・学科の上に立った研究科であるので、各専攻はそれぞれの学科の延長線上にあり、教員は当該分野における高い研究能力とともに教育にも優れた資質を合わせ持つことが要求される。しかしながら現在は工学部の学部再編成により、2007 年度デザイン工学部の設置、さらに 2008 年度理工学部と生命科学部の設置により、各専攻科教員の所属は過渡期にある。理工学部および生命科学部が完成年度を迎えた今、2013 年度に現在の工学研究科を改組により理工学研究科（仮称）として学科と専攻の対応関係を整備し、教員組織の充実を図るべく検討を進めている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい  いいえ

**【根拠資料】** ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。  
・理工学研究科内規（2013 年 4 月 1 日より施行）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

**【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】** ※箇条書きで記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- ・機械工学、電気電子工学、応用情報工学、システム理工学（創生科学系・経営システム系）、応用化学、生命機能学（生命機能学領域・植物医科学領域）の6専攻および系・領域の教育・研究を総合的に議論する各専攻主任・副主任から構成される「専攻主任会議」を設置している。
- ・研究科長が研究科の責任を担うこととしている。
- ・各専攻は、各専門領域の教育研究を組織的に運営し、各専攻主任の責任下において各教員が当該専攻の教育研究の様々な役割を担うこととしている。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・教授会資料にて教授会構成員に周知している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科教授会資料及び議事録

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい  いいえ

(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

理工学研究科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに基づき、十分な研究能力を有し、かつ研究科の理念・目的に沿った人材教育を実践可能な教員を適所に配置している。また、各専攻分野に配置された教員は、優れた教育・研究実績を備えている。今後、教育研究の質保証・質向上を実現するため、必要な専攻分野に増員人事等による教員組織の一層の充実を図る。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

2017年度教員数一覧

(2017年5月1日現在)

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
機械・修士	12	11	8	3
電気・修士	10	7	8	3
情報・修士	11	8	8	3
システム・修士	25	19	11	3
化学・修士	8	8	5	3
生命・修士	14	13	6	3
修士計	80	66	46	18
機械・博士	11	11	4	3
電気・博士	8	7	4	3
情報・博士	8	8	4	3
システム・博士	20	19	4	3
化学・博士	8	8	4	3
生命・博士	14	13	4	3
博士計	69	66	24	18
研究科計	149	132	70	36

研究指導教員1人あたりの学生数：修士4.38人、博士0.26人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい  いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員の新規採用に際し、6年一貫教育体制を目標に掲げ、母体となる学部学科との調整により、年齢構成に配慮して採用を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

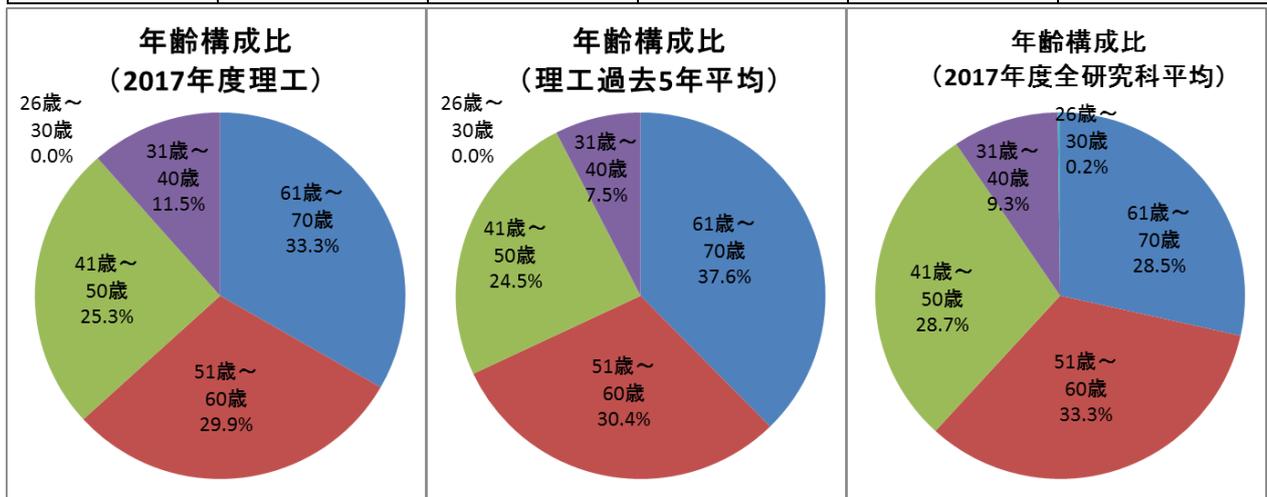
※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	10人	22人	26人	29人
	0.0%	11.5%	25.3%	29.9%	33.3%



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。 はい  いいえ

**【根拠資料】** ※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。  
 ・理工学研究科教員資格内規

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい  いいえ

**【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】** ※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。  
 ・研究科教員資格内規に沿って専攻主任会議で精査したのち、研究科教授会において審議・承認する手続きを適切に実施している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。 S  A  B

**【FD活動を行うための体制】** ※簡条書きで記入。  
 ・理工学部・生命科学部の質保証委員会と連携し、FD活動を進めている。  
**【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】** ※簡条書きで記入。  
 ・FD推進センターで実施される授業アンケート内容を教員にフィードバックし、授業の質向上に活用している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。 S  A  B

**【研究活動活性化の取り組み】** ※簡条書きで記入。  
 ・教育研究補助金・学生研究補助金を継続して実施している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
2017年度には、在外研究員2名が、学内のサバティカル制度を活用して海外にて研究活動を実施した。在外研究の機会を積極的に活用することを推奨し、研究の質向上と、グローバル化への対応力を強化している。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

採用・昇格の際に教員に求める能力・資質等は、理工学研究科内規に明らかにされている。各専攻は専攻主任の責任下において各専門領域の教育研究を組織的に運営し、専攻にまたがる問題等は専攻主任および専攻副主任からなる専攻主任会議を構成して議論しており、役割分担・責任の所在が明確にされている。十分な研究能力を有し、研究科の理念・目的に沿った人材教育が実践可能な教員を適所に配置している。教員の年齢構成は特定の範囲に偏らないように配慮されている。大学院担当教員に関する各種規程は理工学研究科教員資格内規として整備されている。教員の募集・任免・昇格は、研究科教員資格内規に沿って専攻主任会議で精査したのち、研究科教授会において審議・承認されている。研究科内のFD活動は理工学部・生命科学部の質保証委員会と連携して活動する体制になっている。教育研究補助金、学生研究補助金制度を継続することで、研究活動を活性化している。在外研究員制度の積極的利用を推奨することでも教員の研究の質の向上とグローバル化への対応力を強化している。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

国際会議発表・論文作成などの各種研究活動を支援する制度を継続的に実施している。グローバル教育センターと協同して留学生の受け入れ体制を整備してきた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。

大学院学生の生活相談は、学部学生と併せて学士論文指導教員の主催する研究室における定常的な活動の中で実践されている。特に重要な事案が生じるような場合には、大学院生本人や指導教員からの申し出に基づいて、月例の専攻会議の場で研究科としての対応を決めて、教授会の議題もしくは連絡事項として教授会構成員に周知し組織的に行動している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

理工学研究科では、グローバル教育センターと協同して IIST を設置するなど、留学生の受け入れ態勢を整備してきた。大学院学生の生活相談は、指導教員が中心になって対応しており、特に重要な問題は、本人や指導教員からの申し出に基づいて、専攻主任会議で研究科としての対応を決めて研究科教授会に諮っている。

7 教育研究等環境

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

**【2018年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。 TAについては、TAを必要とする科目のリストを大学院生に提示し、大学院生の希望に基づき配置している。研究活動に支障が出ないように、週5コマまでとしている。RAについては、博士後期課程の学生が指導教員の指導の下に行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・教授会議事録	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学部裁量予算を利用して、大学院生が学外発表を行う際の費用の一部を補助することで、研究活動を支援している。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

理工学研究科では、TAを必要とする科目リストに基づいて、大学院生をTAとして配置している。RAについては研究指導教員の指導の下に配置している。
-------------------------------------------------------------------------

**8 社会連携・社会貢献**

**【2018年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 JAXA および国立天文台と連携ダイタク院協定を締結し、継続して研究教育に参画していただいている。また、物質・材料研究機構や国立がん研究センター、理化学研究所など国立研究開発法人とも、学生が必要に応じて申請することにより研修を受けられるような枠組みを確立している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

**【この基準の大学評価】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

理工学研究科では、連携大学院協定により JAXA および国立天文台と連携して教育研究を推進している。国立研究開発法人とも必要に応じて研修を受けられるような取り組みが行われている。

## 9 大学運営・財務

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

① 研究科長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※概要を記入。

理工学研究科では6つの専攻の構成員からなる研究科教授会を設けている。また、研究科には研究科長を各専攻には専攻主任を置き、理工学研究科教授会規定・内規に基づき適切に管理運営がなされている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・ 教授会議事録

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

### 【この基準の大学評価】

6つの専攻の構成員からなる研究科教授会を設け、専攻ごとに専攻主任、研究科には研究科長が置かれ理工学研究科教授会規程・内規に基づいて運用されている。

## III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	IIST コロキウム等、専攻連合型研究会の開催回数の増加
	年度目標	2018年度中3回の研究会実施
	達成指標	実績
2	中期目標	ポリシーに基づいた教育、学位授与
	年度目標	ポリシーに基づく、カリキュラム・マップの策定
	達成指標	Web サイト
3	中期目標	引き続き研究論文の質向上の量の拡大を目指す。
	年度目標	長期的な視点と現状の分析に基づいた具体的な数値目標を設定する。
	達成指標	「学生補助制度利用状況」利用実績
4	中期目標	学生の受け入れ
	中期目標	より一層の国際化を目指し、留学生の就学率を増大させる。
	年度目標	長期的な視点と現状の分析に基づいた具体的な数値目標を設定する。
達成指標	入学者数実績	
5	中期目標	教員・教員組織
	中期目標	年齢構成の適正化は達成されつつある。次世代の研究・教育ニーズに合致した教員組織のありかたを専攻主任会議で定期的に意見交換する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

	年度目標	各専攻において、長期的な視点にたつて教員を新規採用する場合の専門領域に関する議論を行う。
	達成指標	専攻会議議事録
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	「学習成果」の項目で掲げた目標達成を支援するために外部資金導入とその学生への還元、および学内の支援金制度を充実させる。
	年度目標	課題の一つである留学生のTA採用に関する議論を行い。現行のTA制度の見直しを行う。
	達成指標	専攻主任会議議事録
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	外部研究資金、特に一般企業からの寄付研究の受け入れ、共同研究の額を増大する。
	年度目標	外部資金の受け入れ状況を専攻主任会議で報告する。
	達成指標	研究開発センターの実績報告に拠る
<b>【重点目標】</b> 学生の受け入れを重視する。 IISTへの入学者を増やすことで留学生数の増大を図る。また、博士課程への入学者の増加に努力する。		

### 【2018年度中期・年度目標の大学評価】

理工学研究科の重点目標として入学者数の増大が挙げられており、この点からは適切といえる。中期目標については、「将来理工学研究科をどのように発展させていきたいのか」という方向性を出すような意欲的な目標を設定してもよいように思われる。年度目標については、もう少し計画性や具体性を明確にする必要があるように思われる。また、指標についてもより具体的かつ成果を検証できるものが求められる。次年度の目標の設定に際しては、これらの点に留意いただきたい。

### 【大学評価総評】

理工学研究科として目指すべき方向性が理念・目的として設定され、大学の理念に整合するかどうか専攻主任会議等での議論を経て、Webサイトを通して職員および学生に周知するとともに社会に公表されている。修了要件を明示した学位授与方針が設定され、そのための科目が配置されている。これらは大学院要項で周知されるとともに、ホームページ上で公表されている。学位授与方針は、専攻主任会議において随時検証され、最終的に研究科教授会で承認される体制となっている。指導教員の個別指導の下で行うリサーチワークを補完する形で、コースワークを行っているほか、各種セミナー・講演会の開催、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議での発表の推奨により、学生の資質向上を図っている。シラバスに成績評価の方法・基準を明示して単位認定の公平性を確保し、学位論文審査も学位審査基準に従い公正に行われている。学習成果の把握は学生の学会発表件数、論文投稿件数、受賞件数を用いて行われており、授業改善アンケート結果は質保証委員会で活用されている。また、学生の就職・進学状況は、小金井キャリアセンターと連携して把握されている。理工学研究に必要な基礎学力をもち、意欲にあふれる人を一般入試・学内推薦入試・一般推薦入試・社会人特別入試・外国人学生特別入試の4通りの試験によって入学者として選抜しており、その結果は専攻主任会議を経て研究科教授会において検証されている。教員の年齢構成は特定の範囲に偏らないように配慮され、以前よりも改善されている。FD活動は理工学部・生命科学部の質保証委員会と連携して活動する体制になっている。以上のことから、おおむね適正な運営が行われているといえよう。その一方で、強みを伸ばす、不足分を補うような特色ある活動が弱いように思われる。また、年度目標については、総じて計画性・具体性が不明確であり、達成指標についてもより具体的かつ成果の検証が可能なものを設定することが望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。